

健康メモ

下肢静脈瘤

広島市西区医師会理事
 ⑧光仁会槻川病院外科医長

落久保裕之

長時間の立ち

仕事をされてい
 る人から「夕方
 になると足がむ
 くんできて、だ
 るくなり、腫れてくる」と相談され
 ることが多くあります。長時間立っ
 ていると、下肢に血液が溜まってし
 まい、だるさやむくみなどの症状が
 現われてきます。通常下肢の血液は
 足の運動（筋肉ポンプ）によって心
 臓に戻っていきます。立ち仕事で足
 のむくみだるさを訴える方には、下
 肢の運動及びマッサージを指導しま



す。また静脈には血液の逆流を防ぐための弁があり、重力に負けて下へ引かれ逆流しないようにくい止めています。しかし長時間の立ち仕事などにより逆流防止弁が壊れてしまつと、血液が逆流することになり下肢の下の方に血液が溜まり、静脈がこぶのように膨れてしまつことがあります。これが、下肢静脈瘤です。下肢静脈瘤の症状は「足の血管がこぶのように浮き出る」「足がむくみだるい」「治りにくい皮膚湿疹や黒ずみ」などがあり、長期間放置しておくとその逆流がひどくなりうっ滞している静脈瘤が炎症を起こし、足に皮膚潰瘍ができてしまつこともあります。

静脈瘤の治療は、血液の逆流を防止することが中心となります。保存的治療では、医療用弾性ストッキングを着用します。ストッキングで下肢を圧迫することにより表面の静脈に血液を溜めることを防止するもの

です。しかしこの場合着用している時だけ有効で根本的な治療とはなりません。根本的治療としての手術治療が行われます。現在最も多く行われているのが、逆流している静脈を引抜く「ストリッピング手術」と静脈の中に薬剤を注入し血管の壁を内側から密着させることにより、血管をつぶしてしまつ「硬化療法」の併用です。この手術はその方法もいろいろ工夫されてきており、施設によっては日帰りや一泊入院にて行うことも可能となつてきました。

下肢静脈瘤は致死的な病気ではありませんが、悪化することはあつても治ることはなく、病状の進行を止めるためにも治療することが望ましいと思われまふ。静脈瘤かなと思われの方は、是非専門の施設にご相談ください。

